

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。



木炭産増進計画書

一、要旨

鐵鋼事情の緊迫化に照應し船舶に依存せざる鐵源の補給対策として

- (1) 鐵鋼事情の緊迫化に照應し船舶に依存せざる鐵源の補給対策として
- (2) 鐵源供給基地の地方分散を圖ルため
- (3) 海外鐵石輸入ノ激減ニ對應シ資ヲ用途トスル良質統へ航空機用ピアノ線、軸承球鋼、チルドロール、特殊鋼素材、精密機械用ノ絕對必要量ヲ確保スルため凡ユル障害ヲ排除シテ木炭産年間一〇〇、五〇〇噸（二〇年度六三、〇〇〇噸）ノ生産ヲ確保セントス

一般方針
 本案ハ綜合計畫局ニ於テ綜合計畫ノ檢討並取極ヲナシ軍需省ニ於テ閣議決定ノ手續ヲ經テ強力ニ實施スルモノトス

(1) 生産目標

昭和二〇年度 六三六〇〇噸
 昭和二一年度以降 一〇〇、五〇〇噸

石ノ内詳左ノ如シ

(イ) 既設爐休止、計畫中ノ新設爐ノ全面的稼働ニ依リ

四三、〇〇〇噸（年間）

(ロ) 全國各道縣ニ對スル新設ノ増設（設置計畫別紙参照）ニ依リ

五七、五〇〇噸（年間）

（五噸増産年間二五〇日稼働一基當年同一、二五〇噸）

(2) 所安資材、原料、勞務、輸送資金ニ關シテハ事前ニ關係各官ニ連絡シ積極的ナル協力ヲ得ルモノトス

(3) 生産ニ關スル一切ノ責任ハ各地方長官ニ一任スルモノトス

但シ企業ノ主体ノ選定ニ當リテハ軍需省ト道縣ノ協議ニ依リ之ヲ決定スルモノトス

(4) 地方ニ於ケル農機具、輕車輛、トラツク、木炭増産用具ノ開發材ノ活潑ノ現狀ニ鑑ミ生産量中アル程度ヲ地元ニ還元スルモノトス

但シ木炭統ノ質ノ重要性ニ鑑ミ代替鐵ヲ以テ還元スルヲ原則トス
ルモノトス

(5) 本案ノ實施ニ當リテハ全面的ニ軍ノ協力ヲ得ルモノトス

(6) 本案ノ實施ヲ促進スルタメ軍需省鐵鋼局ニ木炭統増産對策本部
ヲ置キ資材、勞務、原料、輸送、生産ノ指導等ヲ行ハシムルモノ
トス

(7) 新爐建設ニ要スル資金並ニ運轉資金ハ産業設備機關又ハ臨時金
融金庫ヨリ支出セシムルモノトス

融金庫ヨリ支出セシムルモノトス

種別	鐵鋼	鋁	耐熱	耐火	赤煉	木
鐵鋼	八二〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇
鋁	一六〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
耐熱	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
耐火	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
赤煉	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
木	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
備	六六〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

三、所要原料（昭和二〇年度）

鐵鋼 二〇〇 噸
鋁 一〇〇 噸
耐熱 三〇〇 噸
耐火 三〇〇 噸
赤煉 三〇〇 噸
木 二〇〇 噸

備
鐵鋼 六六〇 噸
鋁 三三〇 噸
耐熱 三三〇 噸
耐火 三三〇 噸
赤煉 三三〇 噸
木 三三〇 噸

新設四六基分
新設四六基分
新設四六基分
新設四六基分
新設四六基分
新設四六基分

二、木炭、焦炭、新設、要資材

種別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	小計	總計
既設設備	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基
備	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基
新設設備	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基
備	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基	一〇基
計	二〇基	二〇基	二〇基	二〇基	二〇基	二〇基	二〇基	二〇基	二〇基	二〇基	二〇基

備
鐵鋼 六六〇 噸
鋁 三三〇 噸
耐熱 三三〇 噸
耐火 三三〇 噸
赤煉 三三〇 噸
木 三三〇 噸

六月別木炭、焦炭、新設、要資材

四、資金

角館一基、工場單位トス但山林ノ旨マズ
 一單位 五〇〇〇〇〇〇〇〇
 第二次建設資金 七五〇〇〇〇〇〇〇〇
 第二次建設資金 一五五〇〇〇〇〇〇〇〇
 計 三三〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

(1)

砂鑛探掘要員 所要人員
 七〇〇名

備考

ニ〇年度所要鑛石一四六八五〇噸中八〇〇〇〇噸ハ既定計畫ニ依リ砂鑛、鑛石中ヨリ配當シ七〇〇〇〇噸ヲ新規増産スルトシテ五噸爐一基當一日所要量ヲ一二噸一噸年産二、五人ヲ要スルトシテ六一基

(2) 工場作業員

角館一基、工場一單位トス
 第一次建設後 四五〇名
 第二次建設後 九三〇名

備考

一基三〇名一五基分
 但シ中一名ハ中等學校卒業生トス

(3)

木炭生産要員 所要人員
 一〇〇〇〇名

備考

ニ〇年度所要木炭一三三五〇〇噸中三三〇〇噸ヲ生産仰ニ於ケル消費ノ節減其他ニ依リ世出一〇〇〇〇噸増産ニ依リトシテ製炭夫專業者一家族中三〇噸生産トシ一家族ノ構成ヲ三人ト見テ

全焼完成後

備考

本學舎ノ主体ハ既存木炭鑛業者並ニ製炭業者トスルモノトシ製鐵所ノ現在並ニ今後生産記スベキ輕便製鐵ニ依リ生スル餘剩勢力ハ極力之ヲ木炭鑛ノ生産ニ振り向ケルモノトス
 六、新設所要資材七六〇〇〇噸新設各道縣ニ分散輸送

二 原料材料

(1) 砂鐵又ハ鐵鑄石ノ新増輸送分

(2) 木炭 一〇〇〇〇〇〇

(3) 石灰石 一九〇〇八〇〇〇

(4) 石炭 六三三〇〇〇

備考 右ノ砂鐵又ハ鐵鑄石輸送用トニツク一基常四臺

木炭餘没用トニツク一基常二臺

計 必要トス

約四〇〇臺

各製鐵所主トシテ九州

備考

一 砂鐵又ハ鐵鑄石ノ増産分ハ先關係各道縣内ノ開發ニ依リ確保ス

レポート

三

木炭ノ所要量ハ中三五〇〇種ヲ生産地消費ノ節約ニ依リ世出し

行フ

(1) 木炭配給ノ全國的調整ヲナスコト

(2) 燃料林ノ國有林、公有林、社寺所有林、私有林ノ戰時的積極的

開放並ニ地下ノ電力ニ電機スレコト

(3) 木炭銜ノ全生産量ハ物動ニ計上スレコト

(4) 木炭ノ生産効率ヲ高ムルニテ乾燥製炭法並ニ三段燒製炭法ノ研

究ヲナスコト

一、二、三ノ各々ニ對シテ一〇名四〇名トシテ改善計ヲ出ス

其レノ上ノ有リテ於テ其ノ他ノ一、二、三ノ各々ニ對シテ改善計ヲ出ス

315=8
8x40=320
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理
一、燃料林ノ整理